

令和5年度環境活動状況報告

部局名： 事務局

<p>教育</p>	<p>◆環境講義「環境マネジメントと環境経営」でゲストスピーカーとして環境安全課主幹が「岐阜大学の環境への取り組み」の講義を2回実施した(受講者:前学期49名,後学期32名)。また,環境集中講義「環境,CSR(企業の社会的責任)とマネジメント」(受講者34名),「マネージメント論」(受講者6名)の講義を支援した。【施設】</p>
<p>研究</p>	
<p>社会連携</p>	<p>◆十六銀行と連携して,環境問題に対する意識の啓発を目的に,13回目となる「エコ活動啓発ポスター」のデザインを附属小中学校の生徒から募集した。12/14に学長室にて表彰式を行い,入賞者3名を表彰した。また,全応募作品を11月に図書館で展示した。【施設】 ◆岐阜県博物館と岐阜大学との連携企画展「おもしろい骨のはなし しらべる・つくる・のこす」を図書館で開催(10/23-12/6)し,さまざまな動物の骨の標本を展示して,生物多様性への関心を高める機会とした。多くの来場者があった。(13,970人)【学術】</p>
<p>キャンパスプラン</p>	<p>◆環境マネジメントシステムについて継続的に取り組み,ISO 14001の維持審査を11/14,15に受審し,1/12付けで認証の維持が認められた。 ◆本学職員と学生による内部環境監査を実施し,11/7に学生内部環境監査員の修了証授与式を実施した。 ◆クリーンキャンパスに積極的に参加し,環境美化と環境への意識向上を図った。 ◆メール会議やWeb会議,電子決裁(ワークフロー)の活用により,用紙の使用抑制ができた。 ◆「省エネアクト for ゼロカーボンキャンパス」に基づき省エネルギー・節電の取り組みを実施した。 ◆新規採用職員研修において,4/6に「ISO14001の取組について」の講義を実施した。【人事】 ◆教職員に対して省エネルギー(経費節減)及び環境配慮への観点から,学内専用ポータルサイトで光熱水量の使用実績を公表した。【施設】</p> <p>◆省エネルギーを推進するため下記工事を実施した。【施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域科学部・共通教育棟B棟・D棟,地域協学センター一部の空調設備を高効率機器に更新し,空調負荷を低減した。 ・附属学校,図書館の一部,医学部本館1階事務室等の照明をLED化した。 ・医学部看護学科校舎(西棟)外部改修工事では省エネルギーに配慮した以下のことを実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・窓ガラスを一部複層ガラスへ改修した。 ・屋上防水は太陽熱高反射率の材料を使用した。 <p>◆キャンパスマスタープランに基づき,環境保全を図ると共に,教職員・学生・学外の利用者が安全・安心で快適に過ごせる大学環境整備として以下の工事を実施した。【施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> <構内道路・歩道修繕> 構内舗装の補修を行った。 <照明設備更新等> 附属学校,図書館,医学部本館の照明を改修。構内外灯の一部を改修。 <安全の確保> <ul style="list-style-type: none"> ・本部地区電力設備の中央監視設備の予防保全を行った。 ・医学部看護学科校舎(西棟)の屋上防水および外壁改修工事を行った。 ・応用生物科学部校舎他の昇降機設備の部品取替えを行った。 <研究拠点整備計画> <ul style="list-style-type: none"> ・糖鎖生命コア研究拠点工事が完成した。 ・産学融合拠点整備:Tokai Open Innovation Complex(TOIC)の工事が完了した。 <p>◆環境への取り組みの充実【施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海機構として環境報告書を発行し,岐阜大学の取り組みとして環境リーフレットを発行した。 ・「環境報告書2023」について,京都工芸繊維大学と意見交換会を行った。 ・11月に環境月間行事を実施した。 ・学生の環境活動を支援し,学生サークルがサステイナブルキャンパス賞2023 学生活動部門「奨励賞」「特別賞」,ASCN 2023年次大会「LIFE ON LAND PRIZE」を受賞した。

令和5年度環境活動報告

部局名： 研究推進部

<p>教育</p>	
<p>研究</p>	<p>○環境科学に関する研究を引き続き計画通り実施した。 ・再生可能エネルギーを基盤とする地域分散型太陽光発電, バイオマスエネルギー, 地熱の高効率利用・アップグレード化・蓄エネルギー等の技術に関する研究 ・カーボンニュートラル化に向けたエネルギーシステム, ゼロカーボンキャンパス, カーボンリサイクルのための技術課題解決と実証に関する研究, 高性能速度制御等に関する研究 ・生態系の機能と動態に関する研究, 野生動物の管理に関する研究 ・温暖化に対する森林生態系の炭素・水循環機能の応答に関する研究 ・山地森林集水域における気象・生態系・生物多様性に関する研究 ・流域圏の自然環境—地域社会の持続的共生に関する研究 ・気候変動及び人口減少等の社会環境の変化が地域にもたらす影響評価手法の研究 ・気候変動影響に対する適応策の研究 ○カーボンニュートラルおよび自然環境と共生する社会の構築を目指して, 大学と地域の連携を推進した。 ・カーボンニュートラルの推進や環境共生社会の構築に関連した環境・エネルギー分野の研究・実践, 地域協働, 人材育成に関する情報交流および連携支援を行った。 (「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」の地域ゼロカーボンWG, イノベーションWG, ゼロカーボン・キャンパスWG, 人材育成WGへの参加)</p>
<p>社会連携</p>	<p>○岐阜県気候変動適応センター事業を岐阜県と共同実施し, 岐阜における気候変動適応に資する地域ニーズに対応した共同研究を推進し, 適応に資する人材育成と普及啓発の支援を行った。 ○岐阜県環境基本計画に基づいて岐阜県との連携のもと進めている「地域志向人材」と「次世代地域リーダー」育成を目指す「次世代地域リーダー育成プログラム環境リーダーコース」において, 地域の環境に係る課題等の解決のためリーダーシップを発揮し活躍できる人材の育成を推進した。 ○「次世代環境リーダー育成に係る連携授業」事業を岐阜県から受託して外部資金を獲得し, 環境人材・グリーン人材の育成を推進した。 ○地域志向学研究・自治体等との受託事業等やぎふフューチャーセンターの中で環境をテーマとした研究課題や活動を促進し(輪之内町受託事業「輪之内町における『ゼロカーボンシティ』推進及び環境人材育成事業」, 地域の課題解決に積極的に取り組んだ。 ○包括協定自治体等との連携協力として, 関係自治体と共同してテーマ設定した課題解決に取り組んだ。また, 協定金融機関等が実施する環境事業を支援した。 ○「第1回岐阜大学ホームカミングデイ2023」において, 杉山 涼子氏による「地域住民の地平から, SDGsの実現を考える」をテーマとした基調講演, 本学のSDGs・環境問題に関する取組報告, 学生を含む演壇者によるSDGs・環境問題に関する鼎談を実施した。午前の部において, 地域協学センターが企画・運営・司会進行・鼎談のファシリテーターを担当した。</p>
<p>キャンパスプラン</p>	<p>・クリーンキャンパスに積極的に参加し, 環境美化に努めるとともに環境に対する意識の橋上を図った。 ・環境マネジメントシステムに係る教育訓練再確認シートをMicrosoft Formsを用いてオンラインで回答できるようにし, 環境意識の自己啓発に努めた。 ・地域協学センター西側にゴーヤを栽培し, グリーンカーテンとして, 真夏の直射日光を遮り, 室内温度上昇を抑えた。</p>

令和5年度環境活動報告

部局名： 学務部

教育	<p>1. カリキュラムの充実</p> <ul style="list-style-type: none">・教学委員会において全学の環境活動計画を周知し、環境保全の重要性を深める教育の一層の推進を図る。→教学委員会において、全学の環境活動計画を周知し、環境保全の重要性を深める教育の一層の推進を図った。 <p>・全学共通教育において、環境に関する科目を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none">→全学共通教育において、環境に関する授業科目を34科目開講し、1,603人の受講者があった。 <p>2. 正課外活動における環境教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none">・環境保全活動を実施している学生の課外活動団体に対し支援を行う。→課外環境活動を実施している学生団体「岐阜大学環境サークルG-amet」に対して経済支援を行った。同サークルは、サステイナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)2023年次大会及びASCN(アジア・サステイナブルキャンパス・ネットワーク)2023年次大会において複数の賞を受賞しており、岐阜大学としても副学長表彰を授与した。 <p>・クリーンキャンパスへの学生の積極的な参加を促す。</p> <ul style="list-style-type: none">→全学の学生へクリーンキャンパスへの参加をメールにて呼び掛けた。また、今年度、新たな取組として、課外活動団体に対して使用施設周辺のゴミ拾いをするよう、具体的に実施場所の割振を定めたこと、さらに、火ばさみ等の掃除道具の貸出やゴミの引き渡しを行う実施本部を設けたことにより、多数の学生の参加につながった。 <p>・シンポジウム等の開催。岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウムにおいて、環境に関するテーマで学内外の有識者から様々なアプローチを行い、環境と社会的活動に関する教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none">→岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2023の中で実施した「産官学金連携セッション」及び「学術セッション」において、前者は「岐阜大学シンポジウム」として位置づけ、「脱炭素社会実現へのグローバルな取組」及び「インド竹資源の産業化取組状況」と題して、2部構成のパネルディスカッションを実施した。(参加者:128名)一方、後者は「持続可能な地域開発;SDGsとその先に向けて」をテーマに、大学間学術交流協定大学のインド工科大学グワハティ校をはじめ、国内外の大学から計10名の登壇者が食品科学、防災、エネルギー等関連分野の最先端の研究報告を行った。(参加者:92名)
研究	
社会連携	<ul style="list-style-type: none">・学内外の専門家(大学、研究所、シンクタンク、企業など)を講師として招き、本学の学生、教員が地域の方々と共に学び、議論する場として、「グローバル化のためのSDGs勉強会」を開催する。→5月～2月(8月を除く)の期間、学内外の専門家を講師として招き、バイオマスエネルギーを活用した各種取組、持続可能な電力・エネルギーシステムの実現、GX技術の必要性等、多岐にわたる分野で学びの場を定期的に提供した。
キャンパスプラン	<ul style="list-style-type: none">・環境美化を行い緑地保全を推進するため、年2回のクリーンキャンパスに積極的に参加した。・「ISO14001環境マネジメントシステム」に係る教育訓練再確認シートを定期的に記入し、自己啓発に努めた。・岐阜大学環境方針を常時携帯し、周知カードに各人の役割、環境保全活動を記載し、実行した。・昼休み時間における消灯、講義室の消灯、裏紙活用、縮小印刷など資源の再利用を促進し、省エネルギーに関する取組をより一層推進した。